

ふくてっく運営会議 議事録

開催日時：平成26年3月1日 10:00～11:50

開催場所：大阪市立社会福祉センター 3階会議室

参加者：(理事・監事) 小川 稲住 杉浦 曾我部 中北

(その他参加会員) 池端 和泉 川北 有馬

議事進行：中北 書記：中北

議事

議題 1. H25.9 運営会議および理事会の振り返り (別紙議事録)

- ・NPO ぽあとなあに関する活動
- ・補助金等申請に関する基本姿勢
- ・(仮称) 第3部会設立準備の経過
- ・11/23の活動予定 (池島とボジ祭)
- ・20周年記念事業の進捗状況
- ・不採算事業への本部経費支出に関する手続き要綱

議題 2. 各事業部門 上半期活動報告・中間決算ならびに下半期展望

ふくてっくの「つどい」本年度活動報告と来年度に向けた取組方針 (別紙 2/22 会議記録)

木工活動(自由木工を基本)を中心に活動機会を増やしてゆきたい。

そのために、チラシ等を作成活用して、活動情報を発信してゆく。

里山については、まだ“体験”の域を出ないが、

西川氏の協力を得て、活動企画してゆく。

パソコン教室については、一通りの習得段階を全うしたので

今後は上記にもあげた“チラシ”の作成など、具体的な成果づくりに向かう。

林田さんから提起された畑仕事の企画については、まず現地見学をして

どのような活動につなげ得るか検討してゆきたい。

畑会員が呼びかけている“学習会”はすでに住環境研究という域を離れているので

住研部会発という形ではなく、「つどい」のプログラムの一つとして案内してゆく、

あるいは畑会員の個人的案内とするかを検討しており、畑会員と協議している。

住宅改修に関しては、既に部会の形は解消していることを再確認し、いずれこれを行えるようになった段階で、改めて「部会」あるいは「活動グループ」の立ち上げ

を検討する。

「つどい」は以上のように多岐に亘っているが、東大阪とこむねつとが専門性を高めた結果、限定された会員の活動となっているのに対して、ふくてっく本来の誰もが参加できることを基調として進めてゆきたい。

東大阪部会

東大阪においては検証活動も8期目になり、適正検証のほか研修会開催をこなしている。検証実績は期首契約の6割程度となっており、市には案件確保を要請しているところだが、期待通りには進んでいない。

今年度は、はじめての企画として事後調査に取組もうとしており、3月に60件を予定している。

東大阪での当会の取組は他市からも高く評価されており、次年度以降も継続されるだろう。

尼崎市では、介護保険業務の支援という立場で、ケアマネや施工業者向けの研修の委託を受けて、この1～3月にかけて集中的に実施する。

尼崎の取組は2期目となっており、もう一年は続くことになっている。

3月は以上の他、東大阪の報告書づくりもあり、参加メンバーも昨今各自の本務に多忙な中で、かなり過密な活動スケジュールに追われている。

当面の打開策にはならないが、メンバー増強も検討してゆく必要がある。

こむねっと事業部会

既存建物調査活動については、昨年の夏～秋にかけて数件の依頼を受けて活動したが、その後は小康状態となっている。

福祉サービス第三者評価に関しては、たかとの取組がいよいよ始まり、もっかアンケートと自己評価に取り組んでもらっているところであり、回収後 3/15 部会でその分析結果を読み込んで訪問調査の計画を練る。

訪問と調査は 4 月に 3 日を予定している。

若江岩田では、改修工事もういよいよ最終期を迎えており、3 月中にはほぼ完成する。松蔭の学生に手づくり看板作製を担わせることになっており、ここに、ふくてっくから応援を求めたい。

また完成後の事業計画として、新しい構想の空き缶リサイクル事業を提案している。それは、単に空き缶を収集してリサイクル業者に引き取ってもらうのではなく、独自にプレス加工までして製錬所に持ち込むまでを行う事によって、従前のような就労支援や生活介護のプログラムではなく、より収益性の高い“事業”としていこうとするものである。

また、一法人ではなく、いくつかの団体のネットワークを構築して展開することも考えているが、その場合にマネジメントの必要性を生寺、ここにこむねっと事業部としてのミッションが発生する。

ゆくゆくはそうしたマネジメントも障害者団体が主体となることが理想であり、こむねっとは、“風”となる。

飛鳥では、かねて高齢化とともに有病化が進んだ入所者を他の利用者と別に住ませる「医療看護機能ケアホーム」の建設が急がれていたが、市街化調整区域における開発協議に難航していたところ（本体施設の開発区域変更が困難）、近辺に敷地を確保できる見通しが生まれ、これが約 4200 m²に及ぶことからより多様な構想の実現が可能となっている。先の医療看護型ケアホームだけではなく、制度にとらわれず、様々な先駆的企画を検討すべく手をつなぐ育成会から有志メンバーを募って、検討委員会を立ち上げることになった。中北もこれに参画することになっており、こむねっと事業部にも諮ってアイデアを集めたい。

以上、こむねっと事業部会は、新たな事業ミッションの開拓を目指す。

議題 3. 20 周年記念事業計画進捗状況、今夏への集約

このところ、準備活動は停滞している。

過去の関係者への案内も多数が住所変更等々に帰ってきており、一案内を届けた方へのフォローも行き届いておらず、準備活動の全般を再検討しなければいけない。3 月いっぱいにはメンバーが多忙で手が回りきらないので、4 月以降に検討委員会を再起動したい。

記念誌については、以前に協議の上、取り組まないと結論したところであるが 10 周年記念誌が、その後節目節目でそれなりに有効な役割をしたことや、このたびのたかとの 10 周年誌を見るにつけ、やはりその有用性を再認識する。とくに、暦年の活動記録を取りまとめておくことは重要だ。

また、たかとの記念誌で職員ひとりひとりから 4 つのテーマについてコメントを寄せ書きしている企画は参考になる。

議題 4. 広報活動・会員増強活動

ふくてっくの活動をより効果的に発信し、活動を活性化させて、同時に会員増強を図って行くことが喫緊の課題となっている。

リーフレットは意外にコストがかかるので、A4 サイズ 1 枚のもっと簡単なチラシ（活動ごとに別個でもよい）を作成してはどうか。

こむねっと事業部は、団塊世代とその前後の世代に照準を合わせてメンバー拡大を模索したい。

その他議案

①「事業経費予算要求書」(案)には、理事長・事務局長・担当会員の押印欄を設ける。

事業企画主体者に理事長が就く場合は、副理事長が理事長に替わって押印する。

②今後の、つどい活動における発生経費の扱いについては、その都度関係会員間で協議検討する。

運営会議の意見としては、

外部からの委託を受けて活動する場合の経費については、それが有償無償あるいは採算性の有無等々に関わらず、本会に予算要求できる場合もあるとして、前項の予算要求書をもって申請の上検討対象とし、その他のもの、とりわけ、メンバー間の自主的な活集会や動については、基本的に個人負担とすべきと考える。

③有ボ連から 3/14・15 日の合宿会議案内が届いている。

新崎氏を招いて、今後の活動展開を徹底議論する企画。

ふくてつくは、既に会としては登録を抹消しているが、杉浦会員が個人的に参加する。

15日は東大阪部会・こむねっと部会などもあり、他の会員は参加困難。

午後の例会では、案内があったことを披露するにとどめる。

蛇足ながら、社会連携を積極的に目指したい立場の意見として

有ボ連、ボランティア情報市民活動センター(旧ボラセン)、宅老連、大阪NPOセンター、ボラ協、府社協、市社協、区社協など様々な団体や集まりがあるが、市民や市民団体から見て、どれが何を目指して何をしているのか、その役割分担や連携状況はどうなっているのかが分からず、その全てと連携を取ることは不可能で従ってどのように連携・参加してゆけば良いのかが見えない。

それぞれのグループの皆さんはとても良い人ばかりだが・・・

市民活動や福祉が、今一つ社会のおおきなうねりになれない、何かがある。

以上